

海外事務所だより

ニューヨーク事務所

多くの人々が支える 姉妹都市交流の新しい姿

(財)自治体国際化協会ニューヨーク事務所所長補佐 大野 鮎子 (堺市派遣)

姉妹都市交流を支える団体として、アメリカでは国際姉妹都市連盟（Sister City International以下、「SCI」という）が長らく大きな役割を果たしています。また、近年、JETプログラム参加経験者の会（JET Alumni Association以下、「JETAA」という）が姉妹都市交流を支える新たな力として存在感を増しています。本稿ではこれら2つの団体の活動を中心に最新の姉妹都市交流の動きについてレポートします。

SCIとは

SCIは、アメリカと他の国々とのパートナーシップを構築し、強化する活動をしている非営利団体です。自治体レベルでのグローバルな協力関係の構築、文化理解の促進、経済発展の促進を目的としています。アメリカ国内600以上の都市が会員となっており、その提携先は世界136か国2,000以上にのぼります。

同団体の総会は毎年1回開催され、2012年度は7月にフロリダ州ジャクソンビルが会場となりました。総会ではアメリカ内外から姉妹都市交流に携わる自治体や交流団体の関係者が集まり情報交換を行いました。その中で日米のビジネス交流を通じた活動についてセッションが持たれました。

SCI年次総会セッション：ビジネス エクスチェンジと日米友好都市関係

セッションの冒頭、ウッドワード氏が姉妹都市

のビジネス交流においては日米間の取り組みが先導的であり、その基盤には長い姉妹都市交流の歴史や交流数の多さがあることを指摘しまし



ウッドワード氏 (Mr. David Woodward) フロリダの商工会の代表で東アジアの専門家

た。ビジネス交流の事例として、京都府宮津市とデルレイビーチが検討している環境保護や再生可能なエネルギー分野での共同研究や、愛媛県今治市とレイクランドによるビジネス交流の可能性を探るための視察団派遣等の事例が紹介されました。姉妹都市交流をビジネス交流という次のステップに進めるためには、このような双方向の取り組みが大切であることが強調されました。

また日米間の姉妹都市交流を、企業誘致や新規ビジネス展開等に発展させていくためには、これまで培ってきた草の根交流を活用しながら、JETRO（日本貿易振興機構）などビジネスの専門機関等とも連携すること、さらには交流団に企業を巻き込んでいくことが必要だというアドバイスが示されました。

続いて、新見公立大学の山内圭教授（国際姉妹都市交流専門）からは、岡山県新見市とニューパルツ・ヴィレッジが相互に行っている特産品PR・販売の事例や、武雄市とセバストポールのFacebook



新見公立大学 山内 圭教授（国際姉妹都市交流専門）

等インターネット、ソーシャル・ネットワーク・サービスを通じた地場産品販売の可能性についての紹介がありました。同教授は、姉妹都市交流

の経済交流への発展は、お互いが主体性を持ちながら、どのようにビジネス展開していくのかを双方で十分に検討・協議して進めることが重要であると語りました。

JETAAとは

JETAAは、JETプログラム参加経験者有志によって組織された団体で、会員同士の親睦活動のほか、JETプログラムのサポートや、日本文化の紹介などの活動を通じ、日本と参加者の母国との交流促進に貢献しています。アメリカには19の支部があり、毎年1回年次総会が開催されています。2012年度はカリフォルニア州サンフランシスコが会場となりました。その中で日米の姉妹都市交流への参画についてのセッションが持たれました。

JETAA USA年次総会での姉妹都市パネルディスカッション

セッションは、サンフランシスコベイエリア（サンフランシスコ湾の湾岸地域）とカリフォルニア

州北部周辺のいくつかの姉妹都市関係者がパネルディスカッションを行い、それに対してJETAAの支部代表者たちが意見を述べ、質疑をしながら理解を深める形式で進められました。すでに行われているJETAAによる交流事例の紹介も数多く情報共有されました。

姉妹都市関係者からは、JETAAへ期待することとして、世代間の橋渡しとして姉妹都市団体の活動に積極的に参加してほしいとの意見がありました。アメリカの姉妹都市団体はボランティアで運営されていることが多く、メンバーも高齢者が多いため、年齢が若く日本文化に詳しいJETAAが活動に参加することは大きな助けになります。またJETAAとしても、日本の姉妹都市の幹部とファーストネームで呼び合う関係になれる絶好の機会であり、市長と親しくなれる機会は姉妹都市交流以外にはそうありません。姉妹都市交流での交流がビジネスチャンスにつながることもあります。

セッションを通じて、JETAAが今後の姉妹都市交流にとって重要な役割を果たしていくことが確認されました。

JETAA ロッキーマウンテン支部の功績

2012年12月3日、デンバー日本国総領事館が主催する毎年恒例の天皇誕生日レセプションが開催されました。その際、コロラド州のヒッケンルーパー知事から、2013年が「日本とコロラド州の関



JETAA USA年次総会での姉妹都市パネルディスカッションの様子



日本とコロラド州の関係および
友情、相互理解が深まる好機の年

2012年12月3日 コロラド州知事
ジョン・W・ヒッケンルーパー

係が強化され、友情及び相互理解が深まる年」であるという宣言がなされました。日本が米国に贈った桜の100周年記念およびコロラド州と日本との直行便就航、そしてJETプログラムへのコロラドの人々の熱心な参加により、両国間にかつてないほど強い絆が育まれていることを確認するものです。

コロラド州は毎年、天皇誕生日レセプションでこのような宣言を行っていますが、今年はJETプログラムについて言及があったという点において特徴的です。中でも、JETAAロッキーマウンテン支部メンバーが、姉妹都市交流支援に積極的に参加することで、コロラド州と日本との関係強化に貢献していると高く評価されました。この日、同支部の役員たちは、日本人コミュニティメンバーや経済界のリーダーたち、デンバー市のハンコック市長と共に晴れやかな表情でレセプションに出席しました。



ジョン・W・ヒッケンルーパーコロラド州知事

国際交流の原点は「人」

姉妹都市交流は以前から草の根レベルでの日米間交流を促進する上で非常に大切な活動だと評価されていましたが、先の東日本大震災ではその重要性があらためて注目されました。フォートブラッグと岩手県大槌町の交流を例に挙げると、津波により大きな被害を受けた大槌町のためにフォートブラッグの人々が集めた寄付金は250,000ドルに上りました。人口7,000人ほどのフォートブラッグがそれほどの寄付金を集め、津波により多くの人命、家屋、仕事などを失った大槌町を支援したことは、町の人々の心を打ちました。またその感謝の言葉がさらにフォートブラッグの人たちを励ますという、支援と感謝の好循環により両町の絆は深まりました。東日本大震災におけるJETAAの支援活動も高く評価され、日本の各地域で感謝されています。JETAAアメリカの全支部で集めた寄付金（JETAA USA Relief Fund）の総額は約88,900ドルに上りました。

近年、姉妹都市交流の関係者の間では、従来の友好親善から、実質的な成果（特に経済面において）をあげることが求められるようになっていきます。先に紹介したSCI総会でも経済面での連携強化が議論されました。しかし、人と人との草の根レベルの交流が国際交流の原点であることは変わらず、決して古びるものではないことも震災という困難を通じて確認されました。今後、姉妹都市交流を通じて日米の草の根交流を活発化させるためには、あらゆる業種の人々が交流の輪に加わって互いの強みを発揮していくことが重要だと考えます。姉妹都市交流とJETAA支援業務を担当するクレア職員として、まずは、JETAAが姉妹都市交流に積極的に参加できる仕組みを議論していきたいと考えています。